

みんなの議会 おおさと

定例会



町花：つつじ

令和6年8月1日

No. 215

「まもるぞ・わが郷土」

(令和6年度消防演習)

- 2 定例会・修正動議
- 5 10名が町政を質す（一般質問）
- 15 第3回臨時会・第4回臨時会
- 16 議会報告会
- 19 追跡リポート

測量設計業務5,400万円、
土地購入費1億1,800万円 **SSP事業費を否決!**

修正案賛成 7人

原案賛成 4人

修正案賛成

鎌田 暁史 議員

スマートスポーツパーク構想について2点指摘する。

1点目、町民に対する説明が不十分である。5月28日の住民説明会で、町の予算について一切の説明がない。スポーツX社は農業に関する事業計画を持っていない。

2点目、スポーツX社の活動実績と実績、信頼できる会社か調査が必要である。課題を残して測量設計業務の委託と土地購入の予算をとおすのは、時期尚早である。

石垣 正博 議員

スポーツX社に対し賃貸を前提に町が土地を購入する。財務内容についてこれまで示されていらないため精査ができない。

赤間 繁幸 議員

この事業に対し、しっかりと話し合いの場をもっていくということだったが、本会議に一発で出され、疑問に思うことを話す場がなかった。今回は修正案に賛成。

修正 動議

発議者

鈴木 利博 議員

熱海 文義 議員

提 案 理 由

鈴木 利博 議員

スポーツX社の財務状況、資金の裏付け書類、融資証明など未確認である。また土地の賃料、条件などが明確に示されていない、現段階では容認できない。

討 論

原案賛成

金須 新一 議員

「地域未来投資促進法」の申請手続きを行い、国に同意された。スポーツX社が、県に申請した地域経済牽引事業計画が承認された。地権者全員が、町との土地の売買に合意していることから賛成する。

赤間 則幸 議員

地域振興交流拠点の実現を目指し、町が抱える諸問題を解決するためにスマートスポーツパーク事業は必要である。

佐々木 和夫 議員

交流人口の場づくりに町が土地を購入し、所有することは町の活性化につながる。計画する農地の周辺は魅力ある「まちづくり」が進んでいる。

田中 三恵子 議員

千載一遇のチャンス。町・住民・議会が一体となり取り組んでいくべき。その結果は分からないが、とどまる時期ではない。

一般会計補正予算(第2号) 2億8405万円で計上されたが、SSP関連予算を削除し、1億1122万円を追加、歳入歳出それぞれ59億8778万7千円になりました。

おおさとスマートスポーツパーク構想所要予算試算表

[令和6年4月現在]

予算科目	実施内容等	事業費(円)	4月臨時議会補正(円)	備 考
用地費		126,500,000	0	
	SSP事業計画地	114,000,000		
	公園計画地	12,500,000		
委託費		79,970,000	24,970,000	
	SSP事業計画地測量費	24,970,000	24,970,000	用地測量・地形測量(約20ha)
	SSP事業計画地地質調査費	15,000,000		
	SSP事業計画地基本設計費	40,000,000		※基本設計内容により算定する。
	SSP事業計画地実施設計費			※基本構想策定後算定する。
工事費		0	0	
	SSP事業計画地土木インフラ整備工事			※実施設計結果により算定する。
	公園計画地土木インフラ整備工事			※公園設計後算定する。
合 計		206,470,000	24,970,000	

〔おおさとスマートスポーツパーク事業費〕

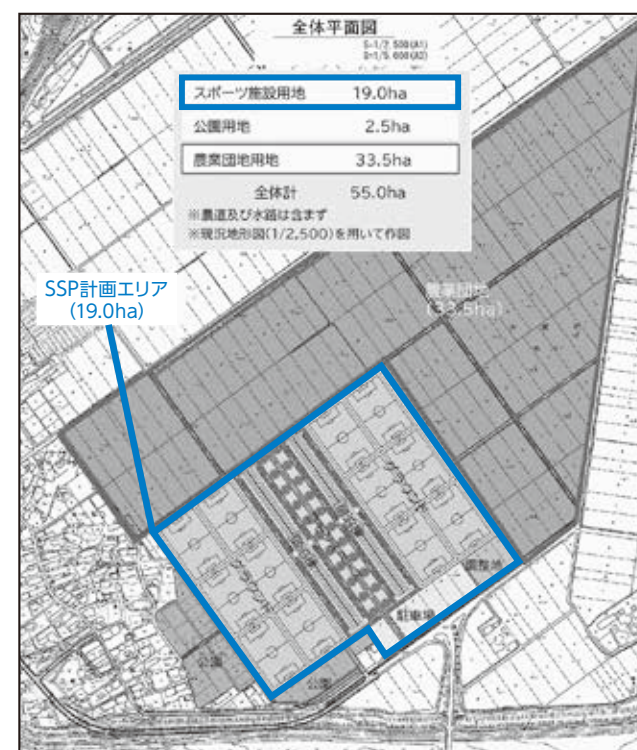


図 土地利用計画・施設配置計画

問 直接スポーツX社が土地を購入すればいいのでは。
答 町が購入し、スポーツX社に貸し付ける。事業の安定性を図るという目的である。

問 貸し付けする際の保証金は。
答 まだ賃料等も明確な金額はないので、今後検討していく。

問 不透明な部分があるので、時間をかけるべきでは。
答 スポーツX社の事業が計画的に進むよう、造成に入ること、今回の予算計上となった。

問 この事業の最終的な町の持ち出しは。
答 概略設計が進んでから今後詳細について検討し、金額を決めていく。

問 不明な部分があるので、時間をかけるべきでは。
答 スポーツX社の事業が計画的に進むよう、造成に入ること、今回の予算計上となった。

一般議案は条例一部改正 1 件、規約の変更 1 件、同意 1 件について審議し原案のとおり可決しました。ほか 6 件の報告がありました。

議案
第36号

特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について

内閣府令が公布、施行されたことに伴い、条例の条文を国基準に合わせるもの。

議案
第37号

宮城県後期高齢者医療広域連合規約の変更について

法律に規定する後期高齢者医療の事務の内（広域連合の処理に関する事務）第4条 別表第1「被保険者証及び資格確認書」を「資格確認書等」に改めるもの。



たかはし まさゆき
高橋 賢之氏
(木ノ崎)

同意第3号

教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

・教育委員会委員に高橋賢之氏を任命することに全会一致で同意しました。

（任期：令和6年6月25日から4年間）

議案採決結果一覧表

分類	議案名 (略称)	採決結果	石川良彦	高橋重信	石垣正博	熱海文義	田中三恵子	金須新一	鈴木恵子	佐々木和夫	赤間則幸	鈴木利博	鎌田曉史	赤間繁幸	採決結果
報告	報告第4～9号	報告のみ													
同意	同意第3号	大郷町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	可												
議案	議案第36号	大郷町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	議案第37号	宮城県後期高齢者医療広域連合規約の変更について	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
修正案	議案第38号	一般会計(第2号) 59億8779万円 (1億1122万円↑)	可	○	○	○	●	●	○	●	●	○	○	○	-
修正議決した部分を除く原案	議案第38号	一般会計(第2号) 59億8779万円 (1億1122万円↑)	可	○	○	○	●	●	○	●	●	○	○	○	-

(↑)は増額、(↓)は減額 可：可決 否：否決 ○：賛成 ●：反対 退：退席 欠：欠席
※可否同数でない限り、議長（石川良彦）は採決に加わらない。

里山整備に地域おこし協力隊を

地域に効果をもたらすように努力(町長)

問 本町の原点は自然の豊かさにある。山林も徐々に荒廃し、整備されていない竹林も見受けられる。今後は、残すべき山林・竹林の線引きをし、整備をすることである。今年は、3～5名の協力隊員を募つてはどうか。

答 町長 どういった人材をどのような体制で受け入れ、持続的に地域で活躍できるようになるのか、事業の再編について検討している。

隊員が任期後に起業・定住するところまでを視野に入れ、生業として継続的に活躍していくことができるかの判断も必要と考えている。

問 隊員が任期を終え定住を決断する際、金銭的なものより「人とのつながり」が大きい。地域でどれだけ親身になって、移住・定住までサポート態勢を構築できるかが重要だ。

地域の住民も一緒に考え行動が感じられる地域の選定である。地域として「川内地区」をモデル地域としてはどうか。隊員を受け入れる地域として適正と考えるが。

答 町長 地域とのつながりがあって定住に結びつく。地域と隊員、隊員同志のつながりを結ぶための体制の構築を検討する。

その中でモデルとなる地域ができ、ほかの地域にも広がりを持つよう努めていく。



▲創生館（川内）

高齢者の生きがいを

問 竹林・山林の整備に、高齢者でもできる軽作業の仕事づくりが考えられる。また協力隊員の起業によって、定住にもつながる。鳥獣被害対策で出るジビエ

答 町長 エ・タケノコ・山菜・竹炭等の産業作りを協力隊員と一緒にできるのではないかと「高齢者の生きがいづくり」となる。町の考えを伺う。

町長 協力隊員の活動に、地域の方が共感し、お

手伝いいただける関係が築けることが理想。今後、地域に波及効果をもたらすような隊員の採用に努めていく。

次ページから
一般質問

10名が町政を質す!



議員 鈴木 恵子

ふれあい農園の有効活用を

根本的な見直しも検討(町長)

問 中央公民館の会議室、多目的ホールの利用状況について伺う。

答 教育長 公民館主催の自主事業や文化協会加盟サークルの皆さんに活用してもらっているほか、企業による学習会・説明会の会場として活用実績がある。

問 「ふれあいの家」のように、集える憩いの場として中央公民館の利活用の考えはないのか伺う。

答 教育長 中央公民館の役割として、「地域の方々の集いの場」の機能も有していることから、積極的に活用していただければと考えている。

問 今、町では様々な団体や個人の方が趣味で作品を作っている。そして中学校では美術部が大変人気だと聞いている。皆さんの作品

を展示するコーナーを設ける取り組みは。

答 社会教育課長 公民館の方に小さいながらもコーナーを作って展示ができるのであれば、検討していきたい。

問 「ふれあい農園」を有効活用するために、現状と改善すべき点と、今後のあり方について伺う。

答 町長 現在、指定管理者の㈱ラトリエが管理運営を行っている。50区画のうち、現在は4区画使用されている。今後も、広く「ふれあい農園」を知ってもらい、借りる方が増えるよう、指定管理者と連携しながら料金の見直しやSNS等を活用した情報発信を行っていく。

一方で、管理運営方法の根本的な見直しも含めた検討をしていきたい。このままでは、せっかくの貸農園が活きていないので本当に根本から見直したい。



▲管理運営の見直しを「ふれあい農園」

記念ロゴを用いた町のPRを

問 記念ロゴグッズは、どういったものなのか。

答 町長 合併70周年記念事業を周知するために、ロゴ入りのシールを作成し、道の駅おおさと等で販売されている大郷町産の商品に貼りつけPRする。

問 町のPRを兼ねて、70周年記念の今年度、周年記念ロゴを活用する考えがあるのか伺う。

答 町長 「公用車表示マゲネット」「マンホール蓋」「横断幕」「ポスター」「記念封筒」の製作。その他ロゴを表示できる物品等を活用し、継続的にPRしていく。

防災士の活用は

地域のリーダーとして期待(町長)

問 今年度予算で防災士を育成する事業を予定しているが、資格取得後どのように活用するか。

答 町長 行政区長等と連携し、有事に備えた地域の防災・減災対応のリーダーとして、活躍することを期待している。

問 各行政区において、防災訓練を実施しているが、内容が統一されていない実態がある。カリキュラムを統一して持続性のある訓練を実施することが、重要であると思うが。

答 町長 情報提供は逐一行っていくが、カリキュラムを統一することによって、自主的な訓練ではなくなる恐れがあるため、カリキュラムを統一することは考えていない。

問 4月末、人口戦略会議は将来的に消滅する可能性がある自治体を公表した。大郷町も消滅可能性自治体に指定されたことに、どのように考えているか。

答 町長 移住・定住のための施策を実施してきたところではあるが、改めて若い世代に魅力を感じてもらえるような施策に取り組んでいく。

問 脱却した自治体のほとんどは、子育て支援の充実や移住・定住につながる住宅用地の確保等の取り組みをしている。本町も同様の取り組みが必要ではないか。

答 町長 若い世代にターゲットを絞った子育て世代の支援、企業誘致、宅地造成が、特に重要だと考えている。



議員 金須 新一

問 今後自衛官OB等、危機管理監を配置する予定はあるか。

答 総務課長 以前、議論した経緯はある。今後必要か判断し検討していく。

消滅可能性自治体からの脱却を

問 転入して来た若い世代に、住宅取得支援事業補助金等の説明や案内を実施しているか。

答 まちづくり政策課長 あらためて案内はしていない。ホームページ上等で紹介しているだけである。



▲支えよう地域を(中村地区自主防災組織)



すずき 鈴木 議員

消滅可能性自治体の対策は

将来を見据えた政策を講じていく(町長)

問 消滅可能性自治体の発表があった。2014年に消滅可能性自治体に該当し、その後他の自治体では消滅可能性自治体から脱却した例も多数あった。

答 町長 本町は、これまでの10年間具体的にはどのような対応をしてきたのか伺う。

答 町長 子育て支援対策は「小中学校の給食無償化」「18歳までの医療費助成」「国保税均等割助成」。

移住・定住施策は「若者子育て世帯定住促進奨励金」「住宅リフォーム助成」「定住促進事業補助金」「空地・空き家バンク運用」。

その他生活環境の基盤整備は「町営住宅、宅地分譲地整備」。

雇用の場の確保対策は「企業誘致」等を実施してきた。

開発センターの指定管理は

利活用を検討し、選定していく(町長)

問 指定管理料が約187万円増額になった訳は。

答 町長 光熱水費約75万円、施設の修繕費約25万円、警備や設備などの施設管理費約15万円、人件費約40万円の増など。

問 公民館と物産館の光熱水費は増額ならず、なぜ、ほとんど使用されていない開発センターが75万円増額なるのか。

答 農政商工課長 令和6年度の開発センター維持管理業務見積内訳書に基づいた予算。電気代その他の光熱費の増加。

問 ほとんどが物産館の冷蔵庫、冷凍庫の使用分ではないか。

答 農政商工課長 これから確認していく。

問 指定管理を任せる他の方法があるのでは。



あつみ 熱海 議員

パストラル縁の郷の管理は

問 今後の開発センターの利活用を検討し、指定管理者を選定していく。

答 町長 今後の開発センターの利活用を検討し、指定管理者を選定していく。

問 (株)ラトリエに貸し出ししているハイエースの契約と目的は。

答 町長 公用車使用申請書の提出で使用承諾している。

また、目的は施設を利用されるお客様を最寄りの駅や体験コンテンツなどのセッティングでの利用である。

問 (株)ラトリエと取引のある企業に農泊していただくとの説明だったが、ほとんど成果がみられない。これからどうしていくのか。

答 町長 農泊や新たな商品開発の事業提案があったが、事業が進んでいない状況である。今後計画や関係事業者との見直しを図り、現在のニーズに合った事業を検討したい。

問 テレワークをやる人が減っている中で施設を利用する人が増えてくるのか。もし、来なかった場合は

一般質問

ネーミングライツの導入を

問 ふるさと納税が、減少傾向になっている。今後の本町の歳入を増やす方法として、公共施設等にネーミングライツ(命名権)を取り入れては。

ネーミングライツの実施結果として、人口が集まりやすくなり、企業の宣伝効果になる。施設の維持管理費を負担してくれるので、本町の負担が軽減される。町長の所見を伺う。

答 町長 ネーミングライツについては、公共施設の維持管理費の負担軽減だけでなく、民間企業とのパートナーシップによる地域活性化も期待されることから、本町でも早期の導入に向けて検討していきたいと考えている。



▲公共施設にネーミングライツを

た改修して何か違う方法を考えてのか。

答 農政商工課長 今、テレワークをする方はいます。そういう方々、もしくは企業さんを対象にしっかりと募集をかけて、PRして誘致して参りたい。

人口減少の対策を

問 大衡村に大規模な半導体の企業が誘致されることになった。本町の人口増加を考えれば、行政主導で宅地造成しては。

答 町長 民間との連携事業と併せ、町主導での事業の可能性も検討していく。



▲これが指定管理なのか(開発センター)



かま だ 謙田 議員
あき ふみ 暁史 議員

SSP構想 資金調達のめどは

調整を進めていると聞いている（町長）

問 農業が抱える問題をどう解決するのか。

答 町長 スポーツ選手等の若い人材への農業機会の提供による担い手の確保、スポーツ関連施設での地元農産物を活用した商品開発と提供、農業とふれあう機会の創出、担い手育成や支援などによる地域活性化の推進などの効果を考えている。

問 スポーツX社による資金調達のめどは。

答 町長 自己資金の追加調達、地元金融機関や株主企業からの借り入れ等、それぞれ調整を進めていると聞いている。

問 資金調達が失敗した場合、町の対応は。

答 町長 事業を進める立場からすれば、そういうことはありえない。スポーツ

老人ふれあいの家

問 今後の見通しは。

答 町長 温泉施設の新たな所有者が決まり次第、今後の温泉施設の活用について確認し、「ふれあいの家」の利用についても協議したい。

問 代替サービスは。

答 町長 「いきいき百歳体操」や「健康長寿対策事業」「生きがい健康づくり事業」など既存の事業を活用していきたい。



▲サービスの再開を

縁の郷のテレワークは？

企業の利用促進に努める（町長）

問 コロナの影響を受け全国的にテレワークが増加したが、現在では利用者が減少し閉鎖する事業者も増えていると聞いている。このような状況の中でも、テレワークの準備を進めているか何う。

答 町長 施設の需要については、緊急事態宣言のピーク時よりも低下しており、様々な調査結果が公表されている。町の施設は、農園やレストラン、宿泊施設が併設している珍しい施設であり、自然体験も組み合わせる事ができる。

現在、施設に入居する企業の募集に向けて準備を整えているところであり、豊かな環境の中で仕事ができる付加価値をPRし、利用促進に努める。

問 郡内で、大郷町だけが消滅可能性自治体と判定された。人口減少が続く中、この様な判定ができたと思うが、今後どのような対策を講じていくのか何う。

答 町長 今後、大衡村での半導体工場の進出など、町を取り巻く環境が大きく変わっていく中で、かわまちづくり事業、スマートスポーツパーク構想なども含め、将来を見据えた効果的な施策を講じていきたい。

問 開発センター＆道の駅の空きスペースの有効な活用について

問 いつになったら空きスペースの活用をするのか、期日を決めて示されたい。

答 町長 コロナ禍が明けて観光事業も回復の兆しがあることから、施設を有効活用していくよう指定管理者と連携を図り検討している。

さらに有効活用するため



▲縁の郷テレワーク室



あか ま 赤間 議員
のり ゆき 則幸 議員

消滅可能性自治体について

には、機械設備、備品等の更新等も必要で、具体的な期日については、町の全体計画と併せて検討していきたいと考えている。

一般質問



議員 中村 三恵子

HPVワクチンの一部助成を

今後の動向を注視し、検討(町長)

問 男性も接種することで癌を予防できる。子育て世代への支援策として、国に先んじて実施することによって「町民が安心して暮らせる健康な町」を推進する大郷町として、一部助成導入について伺う。

答 町長 厚生労働省の専門委員会において、費用対効果に課題があるとの見解が示され、検討は続けるが、男性の定期接種は当面見送る結果になった。今後の動向を注視しながら検討していきたい。

問 ワクチンに対する副作用の不安を払拭し、メリットを積極的に周知しては。

答 町民課長 個別に通知する際、接種券とメリットが記載されているリーフレットで通知している。

町の情報発信については

今後、PRを検討していく(町長)

問 宮城県内外で活躍している本町出身者・関係者を観光大使として任命するなど町のPRを依頼してはどうか。

答 町長 観光戦略の一環として広くPRするため、今後検討していく。

問 農畜産物や6次化商品があるが、PR不足や農業者の作付け面積が減少している。新たな野菜の推進やPRできる商品を開発しているのか。

答 町長 サプライチェーン事業として「えだまめ」に取り組んでおり今年度は7ヘクタール作付け予定である。本町をPRできる農産物の導入及び商品開発を推進していく。



議員 佐々木 和夫

有害鳥獣対策

問 地域おこし協力隊が、目的とする起業・自立を促すため観光・特産品等の情報発信を依頼してはどうか。

答 町長 隊員が最長3年間の任期後、起業し、定住や地域とのつながりをもって活性化できるような仕組みづくりを構築していきたい。

問 イノシシ捕獲頭数が増加傾向にあり、農産物への被害対策の有害鳥獣被害防止施設購入事業補助金について補助対象件数及び効果は。

答 町長 補助事業の実績は、令和2年度から合計40件で、防護柵等の設置により被害は軽減していると考えている。

問 侵入防止柵についても補助金の対象となるようだが、町と地域・関係団体等が役割分担のもと連携を図りながら対策を進めていくことが重要と思われるが。

一般質問

暮らしやすい住民サービスの向上を

問 『救急医療情報キット』を申請者が作成する際のサポート状況について伺う。

答 町長 本人・家族に窓口で交付する。民生委員児童委員が申請の時は情報の記載。

問 日中独居の高齢者にも利用出来るようにしてほしい。

答 保健福祉課長 今年の4月から事業を開始、今後意見も取り入れながら考えていく。

問 「書かない窓口」の導入について伺う。

答 町長 今後ますます簡単で効率的な申請が可能となるよう整備を行いたい。

問 お悔みコーナー(死亡・相続手続きを一括案内で行う)の導入や進捗状況について伺う。

一般質問



▲スピーディーな対応で新しかった案内図

公園の環境整備・美化について

問 町内の公園を、さらに環境整備や美化に努め、町の財産・周遊スポットとして価値を高めては。

答 町長 死亡届は葬祭業者が代行し、医療保険や年金等の手続はご遺族に案内させていただいている。一覧表を作成し、各担当職員が対応している。

答 町長 各公園の維持管理は委託している。観光業者と連携して町内周遊ツアー等の取り組みも開始。

問 勢見ヶ森公園の案内図が破損している。対処していただきたい。

答 農政商工課 確認の上対処していく。



▲斬新な6次化商品・PRキャラクター (ふるさと納税返礼品より一部抜粋)

答 町長 侵入防止柵は、町が資材提供し地区が設置・維持管理を行うが、設置及び経年劣化による補修等の人員の確保が課題である。また、完全に塞ぎきれないため防止柵は本町に適さない判断した。

問 被害防除を行うため野生鳥獣の隠れ家をなくすことが重要となる。耕作放棄地の解消手段の方策は。

答 町長 即効性のある解決策は見当たらない。今後は地域計画を策定し、その計画に基づき営農していくことになると考えている。

SSP構想に関する調査特別委員会を設置

4/26

第3回臨時会

【議案第35号】 一般会計補正予算（第1号）

SSP事業に関する測量設計業務委託費2497万円などを追加。

修正動議発議者 石垣 正博 議員 高橋 重信 議員

削除する修正案を提出。

提案理由 スポーXX社についてよく把握し議論が必要。

修正案を否決

賛成少数により否決し、原案どおり可決した。

【議案第35号】 一般会計補正予算（第1号）

SSP事業に関する測量設計業務委託費2497万円などを追加。

修正動議発議者 石垣 正博 議員 高橋 重信 議員

削除する修正案を提出。

提案理由 スポーXX社についてよく把握し議論が必要。

修正案を否決

賛成少数により否決し、原案どおり可決した。

【議案第35号】 一般会計補正予算（第1号）

SSP事業に関する測量設計業務委託費2497万円などを追加。

修正動議発議者 石垣 正博 議員 高橋 重信 議員

削除する修正案を提出。

提案理由 スポーXX社についてよく把握し議論が必要。

修正案を否決

賛成少数により否決し、原案どおり可決した。

【議案第35号】 一般会計補正予算（第1号）

SSP事業に関する測量設計業務委託費2497万円などを追加。

修正動議発議者 石垣 正博 議員 高橋 重信 議員

削除する修正案を提出。

提案理由 スポーXX社についてよく把握し議論が必要。

修正案を否決

賛成少数により否決し、原案どおり可決した。

【議案第35号】 一般会計補正予算（第1号）

SSP事業に関する測量設計業務委託費2497万円などを追加。

修正動議発議者 石垣 正博 議員 高橋 重信 議員

削除する修正案を提出。

提案理由 スポーXX社についてよく把握し議論が必要。

修正案を否決

賛成少数により否決し、原案どおり可決した。

6/20

第4回臨時会

【議案第39号】 一般会計補正予算（第3号）

1億520万円を追加し、歳出歳入それぞれ60万9299万円となった。

定額減税補足給付金 7400万円

価格高騰対策給付金 2550万円

おおさとスマートスポーツパーク構想（SSP）に関する調査特別委員会

【目的】 おおさとスマートスポーツパーク（SSP）構想に関する調査

【委員の定数】 11名（議長を除く全員）

委員長 熱海 文義 副委員長 佐々木和夫

議案採決結果一覧表												
分類	議 案 名 (略 称)		採決結果	赤間 繁幸	鎌田 暁史	鈴木 利博	赤間 則幸	佐々木 和夫	鈴木 恵子	金須 新一	田中 三恵子	熱海 文義
第3回臨時会	報告第3号	専決処分の報告について	報告のみ									
	議案第35号	一般会計補正予算（第1号）58億7657万円（2657万円↑）	可	○	●	●	○	○	○	○	○	●
	修正案	一般会計補正予算（第1号）58億5068万円（680万円↑）	否	●	○	○	●	●	●	●	●	○
第4回臨時会	議案第39号	一般会計補正予算（第3号）60億9299万円（1億520万円↑）	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（↑）は増額、（↓）は減額
可：可決 否：否決 ○：賛成 ●：反対 継続：継続審査 退：退席 欠：欠席
※賛否同数でない限り、議長（石川良彦）は採決に加わらない。

月 日	用 務	月 日	用 務
4/4・11	広報広聴常任委員会	5/22	議員全員協議会・議会運営委員会
4/5	春の交通安全運動大郷町開始式	5/24	江合・鳴瀬・吉田川水系改修促進期成同盟会並びに鳴瀬川総合開発促進期成同盟会総会（大崎市）
4/6	すくすくゆめの郷こども園入園式	5/28	宮城県町村議会議長会臨時総会（仙台市）
4/9	大郷小・中学校入学式	5/28	宮城黒川地方町村議会議長会臨時総会（仙台市）
4/17	宮城黒川地方町村議会議長会臨時総会（仙台市）		議会運営委員会
4/22	議員全員協議会	5/29	仙台北部道路建設促進期成同盟会監査
4/23	黒川地域行政事務組合議会運営協議会・臨時会（大和町）	6/4・17	広報広聴常任委員会
4/24	教育民生常任委員会	6/4～7	第2回（6月）定例会
4/26	第3回臨時会	6/9	大郷町消防団消防演習
5/9	議員全員協議会	6/14	議員全員協議会
5/13～15	総務産業常任委員会【福岡県香春市・熊本県西原村】	6/20	第4回臨時会
5/18	議会報告会【大松沢社会教育センター・中粕川分館】	6/24	教育民生常任委員会
5/19	議会報告会【中村分館・ふれあいセンター 21】	6/24	おおさとスマートスポーツパーク（SSP）構想に関する調査特別委員会
5/20	黒川地方町村議会連絡協議会監事会並びに役員会（大衡村）	6/25～27	教育民生常任委員会【富山県入善町・福井県美浜町】
5/21	全国町村議会議長・副議長研修会（東京都）	6/26～28	宮城黒川地方町村議会議長視察研修（北海道）

防災コミュニティセンターの運用は

人々が多目的に交流できる場所（町長）

問 防災コミュニティセンター完成後の運用について伺う。

答 町長 地域住民の一時避難場所として適正に運用されるべきであり、人々が多目的に交流できる場所として活用してもらいたい。

問 社会福祉協議会に運用してもらいたいという要望があるが町の考えを伺う。

答 町長 運用方法は色々あると思うが、考えの一つとして、十分検討していきたい。

問 一部を地域の分館として使用することは可能か。

答 町長 分館機能を全て移動とは考えていないが、地域の方々に会議やレクリエーションなどいつでも使っていたきたい。

問 町はどのように関わっていくのか。

答 町長 この事業は「スポーツ振興」による地域活性化のほか、町が抱える「農業の担い手不足」の課題解決の一翼を担う事業であり、積極的に関与し農業の好循環の生まれる仕組みの構築を検討していきたい。

問 農業の担い手が不足する要因をどう考えているのか。

答 町長 若い担い手の方も増えてきているが、1700ヘクタールの農地を維持管理していくのは、将来難しくなるかもしれない。

問 事業に対して町は億単位の支出をするわけだがその内訳を伺う。



▲気軽に集いふれあう居場所に（防災コミュニティセンター模型）



あか ま しげ ゆき 議員
赤間 繁幸

問 消防団ポンプ小屋を防災センター敷地内へ移動はできるのか。

答 町長 敷地内、付近を含め、どこへ移転させるのが良いか検討中である。

スポーツX事業について

答 町長 用地の取得と道路・用排水路・上下水道といった公共設備の整備になる。

問 仮にこの事業ができなかった場合、その用地を他の事業に使うことはできるのか。

答 町長 現在の事業計画はあくまでもスポーツX社で承認いただいているため、計画の変更が必要になる。

問 その際に、何かペナルティはあるのか。

答 町長 ありません。

共に考えましょう 大郷の未来を

町内4地区で議会報告会を開催（5月18日・19日）

令和6年度の予算概要説明後に、意見・交換会を行い、68件の多くの声が寄せられました。今後、町政や議会活動に反映するよう努力してまいります。

意見・要望



▲中粕川分館

問 中粕川防災コミュニティセンターはどのような形で運用するのか。

答 防災備蓄倉庫を備えた一時避難所および、地域の人が多目的に交流できる場として運用。管理運営は、地域の皆さまと協議していきたい。

問 土手崎・三十丁地区の堤防工事の影響で町道が大幅傷んでいる。特に傷みのひどい部分の修復は出来ないか。また堤防工事の完成時期は。

答 国土交通省と現地確認する。また、台風災害に関連した事業は、令和7年度完成と聞いている。

問 前沢田地区は大雨が降ると通行止めになる。排水対策を。

答 令和6年度末を目標に後谷地排水機場の能力強化など、内水被害に向けた対策を決定していく。

問 若者・子育て世帯向けの住宅を建設してはどうか。

答 民間企業との連携による宅地造成を推進している。町が公営住宅を建設する計画はない。

問 縁の郷のテレワーク施設の現在の状況は。

答 サテライトオフィスを見学する企業やワーキングスペースの活用が数件ある状況。

問 道の駅のバス停は冬場寒いので塀などの対策を。

答 以前から利用者の方の声がある。あらためて要望する。

問 外国人登録者数は。

答 5月末現在で167人。

問 特産品（モロヘイヤ）の作付け面積、販路拡大に努められたい。

答 普及促進のためには、町の支援が必要と考える。今後、問題提起していく。



▲中村分館

問 一人暮らしの高齢者対策は。

答 見守り・訪問活動を実施している。今後、一層の高齢社会が進むので、事業の拡充が求められる。

問 交通弱者に対し、宅配サービスを実施できないか。

答 需要がある。他自治体の先進事例を参考に検討すべき課題と考える。

問 ふれあい農園の利用が少ないのでは。現状はどうなっているのか。

答 利用者が少ないので、管理運営方法の見直しの検討が必要と思う。



▲ふれあいセンター 21



▲大松沢社会教育センター

追跡リポート

鳥獣被害対策について

これまでの意見・提言等

有害鳥獣被害が懸念される。町民への人的被害はないが、被害を未然に防ぐ対策を講じる時期に来ていると思われる。町の考えは。

クマやイノシシの生息域が拡大した現状においては、引き続き対策を徹底するとともに、民家付近に餌となる食べ物を置かないことや、柿の木などの実のなる作物を収穫し、放置しないようにするなど、地域の皆様の協力をいただきながら対策を講じていく。

(令和6年3月定例会 一般質問より)

その後の対応と今後の計画

鳥獣における人的被害防止の対策として、クマについては防災無線での注意喚起に加え、町内の小中学校児童へ新たにチラシ配布したところ。またイノシシについても、新たにチラシを全戸へ配布し、注意喚起を行ったところ。

今後の対策としては、クマの出没があった際に大和警察署、宮城県、大郷町鳥獣被害対策実施隊、行政区等の各関係機関との連携を強化しながら、対応していきたいと考えております。また農作物被害等の観点から、箱罠等による有害駆除にも努めて参ります。

農政商工課



捕獲したイノシシ

防災士の育成を

これまでの意見・提言等

防災士資格取得に係る補助金交付要綱を策定し、経費を全額負担して各行政区（22区）に防災士を育成し、配置する事業を考えているが町の考えを伺う。

防災士資格取得に係る支援については、防災士は災害に強いまちづくりを推進するために必要な人材と認識しており、各地区の自主防災組織での活躍も期待できることから、今後、他自治体を参考にして内容を検討し、要綱を制定したいと考えている。

(令和5年9月定例会 一般質問より)

その後の対応と今後の計画

令和6年4月1日に大郷町自主防災組織機能強化補助金交付要綱（大郷町告示第64号）を制定しており、同年4月25日開催の区長会において内容について説明している。

今後においては、防災士を取得した行政区にあつては、行政区長だけでなく防災士資格取得者と連携し、地域における防災力の向上並びに防災意識の高揚及び定着を図っていただければと思います。

総務課



▲防災士資格取得者による研修会の様子

介護保険制度の現状は



▲長生は身体づくりから

【調査の概要】

令和6年4月24日(水)、保健福祉課長等より高齢者福祉計画・第9期介護保険事業に基づき、介護保険制度の現状等について説明を受け調査した。

【意見】

1. 高齢化率について
75歳以上の後期高齢者は、令和7年から令和17年にかけて増加傾向が見込まれることから、豊かで安定した生活の確保や高齢化社会に適した町づくりの総合的推進を検討されたい。
2. 介護認定者数の推移について
要支援・要介護認定者（第1号被保険者）数の推移は、令和7年から令和22年にかけて増加傾向が見込まれることから、健康づくりの総合的推進、持続可能な介護保険制度の運営や介護保険サービスの充実、認知症高齢者支援対策の推進を図られたい。
3. 医療費の推移について
高齢化と並行して医療費の増加も予測されることから、壮年期からの生活習慣病予防対策の強化や適切な医療機関受診促進等の周知活動を検討されたい。
4. 介護予防事業の取り組みについて
①要介護状態になるおそれの高い対象者の方に、栄養改善・口腔機能向上指導を継続して実施されたい。
②高齢者の介護予防とともに、生きがい・やりがいのある生活を長く送ることができるよういきいき百歳体操、元気アップ教室、健康相談等の事業を継続されたい。
③老人ふれあいの家は、昨年7月から休館中であるが、利用していた方々から復活を求める声が多数ある。代替サービス事業を早急に検討されたい。

次回は

「教育環境について」

を調査します。

移住・定住、産業復興について



▲福岡県香春町役場

【調査の概要】

令和6年5月14日(火)、福岡県香春町役場において、15日(水)、熊本県西原村役場において、移住・定住、産業振興について説明を受け調査した。

【意見】

- ①福岡県香春町では、これまで地域おこし協力隊員を9名採用し、そのうち6名が定住につながった。隊員募集にあたっては、隊員にしてほしいミッションを明確化し、隊員の自由な意思を尊重している。柔軟な対応とコミュニケーションにより、信頼を構築しており、ある隊員は、移住者が住みたくなくなる住環境の提供や、町の新しい「暮らし」の写真や動画での発信を行い、定住促進に貢献していた。本町においても、地域おこし協力隊員の募集要項に工夫を凝らし、ポテンシャルの高い人材を採用することが必要で、彼らの力も最大限に活用しながら本町への移住定住を図るべきと考える。
- ②熊本県西原村は、人口や面積が本町と同程度の自治体で、台湾からの半導体企業が誘致された菊陽町に隣接している。50年前と比較して人口は増加しており、その要因は、隣接自治体からの交通アクセスの良さと安価な土地価格、そして熊本市近郊のベッドタウン化や外国人実習生の増加によるものとのことであった。また現在、企業誘致に向けた取り組みとして、令和8年度を目標に村主導で14億円を投資し、工業団地の造成が進められており、購入希望者が多数あり、完売の予定ということであった。
- ③本町においても、町が主体となって工業団地造成へのかじ取りをし、労働環境の確保や税収のさらなる増に向けた取り組みをすべき時期にきているものと考えます。

次回は

「公共施設の
管理運営について」

を調査します。



大郷町前消防団長
すずき やすのり
鈴木 安則 さん
(中粕川)

大郷町消防団長として、
ご活躍された鈴木安則さん。
今後の消防団のあり方等を
テーマに取材をさせていた
だきました。

〈経歴について〉

昭和57年7月24歳で消防団に入団。その後部長、分団
長を歴任し平成28年4月消防団長に就任し、令和6年6
月30日退団。

黒川地区支部長表彰受賞（平成15年9月）
県協会永年勤続賞受賞（平成19年11月）

〈記憶に残る災害について〉

令和元年10月襲来した台風19号により、吉田川堤防が
決壊し、中粕川地区を中心に甚大な被害をもたらした災
害対応が、消防団人生42年で最も記憶に残っておりま
す。幸いなことに死者・負傷者1人も出さなかったことによ
り「奇跡の町大郷」と題した記事で全国的に知名度が高
まった。この背景には先人たちが、遠い過去から吉田川
と共存・共栄してきたこと。日頃の自主防災組織の訓練
が実を結んだこと。黒川地域消防との連携がスムーズに
図られた結果だと語られました。

〈今後の消防団のあり方について〉

第一に消防団員確保の強化。予測が難しい自然災害時
の対応等、黒川地域消防と日頃から訓練を重ね連携を図
ることが、重要と考える。さらに将来に向けて、消防団
の統廃合を考慮した資機材整備等が課題であると語られ
ました。

住民の
声

住みたい町・
選ばれる町に…



うえの ひろき
上野 広貴 さん
(鶏崎)

私が生まれた頃の大郷町の人口は、1万人を
超えていましたが、1万人を割ってから徐々
に減少し、現在は7500人程になっています。

先日新聞に、大郷町は『消滅可能性自治体』
であるという記事が掲載されました。これは民
間の有識者でつくる「人口戦略会議」が今年4
月に発表したもので、人口から見た地方自治体
の持続可能性について分析した結果とのことだ
した。将来予想とはいえ、衝撃的な内容で、大
郷はなくなるのか？という不安と驚きを感じま
した。町でも対策は講じてきたことと思います
が、人口減少に歯止めがかかっていないのが現
実です。

人口を増加させるには定住する人を増やすこ
と、そのためには住みたい町として皆さんから
選ばれる町になることが一番大事なことではな
いでしょうか。今町では「スマートスポーツ
パーク構想」が計画されています。将来持続可
能な町にするため、『おおさと』の未来に関わ
るこの事業を、議会は慎重に検討していただき
前に進めて行ってもらいたいと思います。

次回
定例会

予定

9月4日(水)から
午前10時～
9月20日(金)まで

ライブ中継と録画を動画サイ
ト「YouTube（ユーチュー
ブ）」にて、配信しています。
右記のQRコードよりご覧に
なれます。



編集後記

昨年8月の町議会選挙
から、まもなく1年を迎
えようとしています。春
夏秋冬4回の定例会を経
験し、今後も議員として
の資質の向上に努めます。
「議会だより」は定例
会での議決状況等、各議
員の一般質問を中心に編
集しています。どうして
も「固いイメージ」な紙
面になりがちですが、町
民の皆様が「読みたくな
る」「見たくなる」議会
だよりづくりに力を注い
でまいります。今後とも
ご支援を賜りますよう、
お願い申し上げます。

金須 新一

広報広聴
常任委員会

委員長

高橋 重信

副委員長

石垣 正博

委員

鎌田 暁史

鈴木 利博

赤間 則幸

金須 新一